

越生版スーパー・シティプロジェクト ～みどりとせせらぎのまち越生～ 地域まちづくり計画



令和8年6月
越生町

取組の概要

まちづくりにおける課題

全国的に激甚化する自然災害への対応や、福祉・医療分野の充実など多様化する住民ニーズへ対応していくためには、適切な土地・建物利用の誘導や都市整備が必要である一方、人口減少に伴い行財政改革や効率的な事業投資・運営を行い持続可能なまちづくりを進めていかなければならない。

また、人口が平成12年頃から減少を続けており、少子化・若年世代の町外流出とそれに伴う地域経済の縮小に対する対策や、高齢化の進行による地域公共交通網の整備が課題となっている。

まちづくりの方向性

地域ごとの特徴を活かし、住み続けたい、訪れたいと思える魅力的なまちづくりを目指す。

誰もが安心して暮らせるよう交通ネットワークの整備や駅を拠点としたまちなかの活性化により、暮らしやすさと利便性を高める。

また、自然豊かな環境と歴史的な資産を活かした観光振興や地域ブランド力を高め、空き店舗等の利活用による賑わい創出を図り、歩きたくなる魅力的なまちづくりを進める。さらに、地域住民や事業者と連携しながら、防災・環境保全・子育て支援など多角的な施策を展開し、持続可能で安心できるまちづくりを推進する。

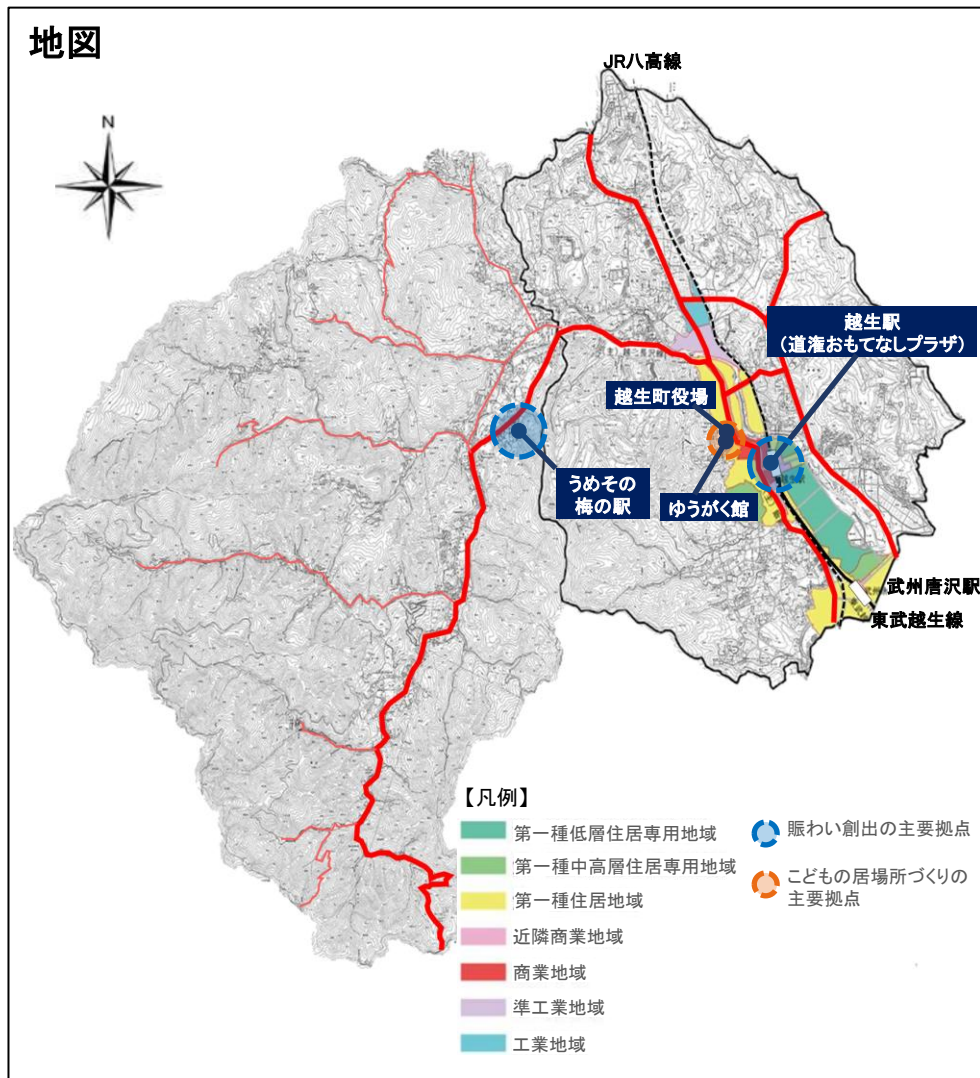
他の計画における位置付け

- ・第六次越生町長期総合計画
- ・越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・越生町人口ビジョン
- ・越生町都市計画マスタープラン
- ・越生町立地適正化計画
- ・越生町地域防災計画
- ・越生町こども計画

対象地域及び区域

町全域

地図



地域の現況

人口・世帯の状況

越生町の人口は平成12(2000)年の13,718人をピークに減少局面に入り、令和2(2020)年時点で11,029人となり、約20%減少している状況である。一方で、世帯数は、核家族化の進行などにより増加傾向にあり、世帯規模の縮小が進んでいる。

年齢3区分で見ると、0～14歳の年少人口や15～64歳の生産年齢人口は総人口と同様に減少が進んでいる。

一方で65歳以上の高齢者人口は昭和55(1980)年からの40年間で約3倍に増加しており、令和2年の高齢化率は36.3%と高い水準となっている。

今後も人口減少は継続し、令和12(2030)年からは高齢者人口も減少局面に入る見込みである。

地域交通の状況

越生町の公共交通機関は、東武越生線とJR八高線、および路線バス3路線から構成され、町民の通勤・通学、買い物や観光など日常生活を支える重要な役割を担っている。

少子高齢化や人口減少により公共交通利用者は減少傾向にある一方で、既存公共交通の維持が求められており、サービス水準の維持が課題となっている。

既存公共交通の維持とともに、将来的なスマートモビリティの活用なども視野に、人の流れを生み出す公共交通を検討する必要がある。

現在の地域交通タクシー・バス利用券のあり方も含め、総合的な交通計画を整備し事業を進める。

開発の状況

越生町は、町域の西側が山林に覆われており、比較的平坦な東側が都市計画区域として設定されている。

都市計画区域の面積は1,554haで、山林や農地などの自然的土地利用が約6割を占める一方で、住宅用地や工業用地などの都市的土地利用は2割弱となっており、豊かな自然環境の中に市街地が存在するという構造になっている。

市街化区域は170.2haで、越生駅および武州唐沢駅周辺や主要地方道飯能寄居線沿道を中心に形成されている。この市街化区域の約4割では土地区画整理事業が完了しているが、基盤整備が行われていない既成市街地では道路幅員が狭く、住宅の密集も見られる。

また、準工業地域には住宅と工場が混在する地区も存在している。

地域資源

越生町は、越生梅林や黒山三滝、上谷の大クスなどの景勝地に加え、四季折々の花々や文化財、伝統行事など多様な観光資源に恵まれている。

本町の特産である梅やゆずは県内有数の産地であり、PRイベントや「うめその梅の駅」などの施設での直売・交流を通じて、観光と農業を一体的に活かした地域ブランドの形成を進めている。また「越生べに梅」のブランド化や6次産業化を通じて付加価値向上と地域産業を振興している。

観光では、梅をはじめサクラ、ツツジ、ヤマブキなど豊かな自然を活かしたハイキングルートを整備し、「ハイキングのまち」として観光イベントや月例ハイキング等を展開することで、年間約60万人の観光客が訪れる。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

越生町は、人口減少に対応したコンパクトで効率的な都市形成と越生梅林や黒山三滝などの豊かな自然を活かした歩いて楽しい健康づくりの「ハイキングのまち」を推進する。また、災害に強く、地域コミュニティに活力のある、町民が安心して元気に住み続けられるまちづくりを目指す。コンパクトでは、創業者支援や空き家・空き店舗の利活用等による産業振興と移住・定住の促進に向け、既存の空き家バンク制度を核としたストック活用を進める。スマートでは、既存公共交通の有効活用とスマートモビリティを組み合わせるため、地域公共交通会議を立ち上げ、最適なモビリティサービスを検討する。レジリエントでは、こどもの居場所等の充実を通じて多世代交流・支えあいを進め、新たな児童館整備により、子どもと保護者などが気軽に集い交流できる安全・安心な拠点を形成する。

推進体制

事業毎に庁内関係課と協議する場を設け、部署間を超えた柔軟な対応ができるよう事業の円滑な遂行に努める。計画の推進にあたっては、町民と行政が共通の課題と目標を持ち、相互理解のもと協働によるまちづくりを推進する。

関係各種団体等が参画する機会を広げ、町民の意見を尊重しながら計画を進める。事業により、産官学民など関係機関との連携を行い、各分野の知見と資源を最大限活用して事業をより良いものへと深化させる。

計画の進捗状況は、定期的に点検・評価を行い、PDCAサイクルにより効果的・効率的な計画推進を図る。

事業全体の概要

【コンパクト】「健康」「生きがい」「賑わい」が歩いて繋がるまち

- 既存施設の「ゆうがく館」を活用した新たな児童館の整備やこども食堂への支援など、こどもの居場所等の充実を通じた多世代が交流し支えあう地域コミュニティづくりの推進
- 創業者支援や空き家・空き店舗の利活用等による産業振興と移住・定住の促進
- 駅を拠点としたまちなかの活性化と賑わいの創出
- 「道灌おもてなしプラザ」や「うめその梅の駅」などを拠点とした歩いて楽しい「ハイキングのまち」を推進し賑わいの創出と健康づくりを支援

【スマート】スマート技術を活用した住んで快適・

訪れて魅力的なまち

- 地域公共交通会議を立ち上げ、既存公共交通の維持とともに、将来的なスマートモビリティの活用なども視野に入れた持続可能で効率的な地域公共交通ネットワークの整備
- 官民連携による移動販売車を活用したオンライン健康相談
- 「越生べに梅」などの地域資源とスマート技術の融合による農業振興やまちの魅力アップ

【レジリエント】安心して住み続けられる災害に強いまち

- 河川監視カメラの設置による迅速な情報提供
- 地域防災の担い手となる人材を育成し、災害に強いまちづくりを推進するための住民の資格取得支援
- 電気自動車や再生可能エネルギーの導入による災害時の電力供給環境の整備

計画図

スマート

スマート技術を活用した
住んで快適・訪れて魅力的
なまち

スマート技術の活用検討

・地域公共交通ネットワークによる
持続可能な交通網の整備



・移動販売車を活用したオンライン
健康相談



▲移動販売車のイメージ

・地域資源とスマート技術の融合
による農業振興とまちの魅力アップ



【凡例】

- 第一種低層住居専用地域
- 第一種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域



越生長沢線

レジリエント

安心して住み続けられる
災害に強いまち

防災、安全・安心

- ・地域コミュニティによる防災、減災の推進 (取組支援)
- ・地域防災担い手育成(防災士資格取得支援)
- ・河川監視カメラ設置



こどもの居場所づくり

・多世代が交流する
地域コミュニティの形成



ゆうがく館

賑わい創出・健康づくり

- ・駅を拠点としたまちなかの
活性化と賑わいの創出
- ・「道灌おもてなしプラザ」や
「うめその梅の駅」を拠点とした
「ハイキングのまち」を推進

越生駅
(道灌おもてなしプラザ)

産業振興・移住定住

・創業者支援や空き家
空き店舗の利活用

うめその梅の駅

越生町
空き家
バンク

▲越生町空き家バンク



▲月例ハイキング

コンパクト

「健康」「生きがい」
「賑わい」が歩いて
繋がるまち



【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
既存施設「ゆうがく館」を活用した新たな児童館などを拠点とした地域コミュニティの創出	町	①新たな児童館の整備や、 ②こども食堂への支援など、 こどもの居場所等の充実を通じて多世代が交流し支え合う地域コミュニティづくりを推進する。	①児童館整備	①児童館の運営					新たなこども支援活動拠点整備促進事業（県補助事業）を活用予定
			②こども食堂への運用支援						
空き家・空き店舗の利活用推進（空き家バンク制度）	町、民間事業者	空き家・空き店舗の利活用等により創業機会の創出や雇用の拡大を図ると同時に、都市部からの人の流れを地域へ取り込み、定住を促す循環をつくる。	空き家バンク制度の運用						空き家バンク等活性化支援事業（県補助事業）を活用予定
			空き家改修補助金や成約奨励金等の制度の見直し		運用				
町内で起業する中小企業者の支援（①おごせ創業塾開催費用補助、②起業家応援事業補助金）	町、関係団体	①商工会が実施する創業塾を支援し、町内における新規事業者を創出する。 ②産業の振興及び活性化を図るため、町内での起業に要する費用を支援する。	①「おごせ創業塾」開催事業費補助金による支援						
			②起業家応援事業補助金による支援						
駅を拠点としたまちなかの活性化と賑わいの創出	町、関係団体	「道灌おもてなしプラザ」や「越生町観光案内所OTIC」などの駅周辺施設を有効活用し、地域の魅力や最新情報を得られる暮らしの拠点として機能強化を図り、住民・観光客など多世代が集い交流できるエリアを創出する。	事業の検討						
ハイキングのまち推進事業	町、関係団体	「道灌おもてなしプラザ」や「うめその梅の駅」などを拠点として、健康マイレージ事業等の取組の充実と、回遊型観光の創出により、健康づくりと賑わいを同時に実現するハイキングのまちを推進する。	健康づくり・観光プランの検討・実証・運用						

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	越生町に今後も住みたいと思う割合 (住民意識調査)	58.2% (令和6年8月)	65.0% (令和11年8月)	
コンパクト	児童館の利用者数	0人 (令和8年6月)	28,000人(累計) (令和12年度)	第3期越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (令和9年4月オープン予定)
コンパクト	空き家バンク成約件数	72件 (令和7年3月)	110件(累計) (令和12年3月)	平成25年9月制度開始から現在年間平均6.25件成約
コンパクト	交流人口(観光入込客数)	59万2千人 (令和6年度)	60万人 (令和12年度)	第3期越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略
スマート	道路・交通の便が悪いと思う割合 (住民意識調査)	26.2% (令和6年8月)	20.0% (令和11年8月)	第3期越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略
レジリエント	防災士資格取得者数	5人 (令和7年度)	55人(累計) (令和13年3月)	第3期越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略